

図書館最前線

昭和44年度 短期大学部生活科・食物課程卒：挾間町立図書館

館長 山 月 美江子

食物課程を卒業して、なんで図書館？と思われるでしょうが、私が町立図書館に勤務するに到った過程を話すと原稿用紙3、4枚では収まらないかもしれません。とにかく、「人生いくつからでもやり直しがきく」ことを実践したというところです。人は息をしている間は、けして手遅れなんてことはありません。「ひたすら、こうなりたいと念ずる心と、少



しの努力があれば、自然と運命がそちらへ向って動き出す」とは、私の母の教訓でした。私の場合まさにそれを実感する人生をあゆみました。余談ですが、期待することにより、相手もその期待に応えようとする現象が現れるを、「ピグマリオン効果」と言うんだそうで、「彫刻家（キプロスの王との説もあり）ピグマリオンが自分の作った大理石の乙女に恋をし、その一念で彫刻は、人間となり二人は結ばれた。」と言うギリシャ神話からきているとのこと。そのことを、私の母が知っていたかどうかは、定かではありませんが・・・。

短大は出たけれど、なりたい仕事など見つからず、親の言いなり、県庁の臨時職員からの出発でした。それが、この歳になって、図書館の館長に納まってしまいました。私の人生の再挑戦に手を貸してくれたのは、別府大学で行われている夏の司書講習でした。やっと、やりたい仕事を見つけたという感じでした。その時すでに40歳・・・。

何はともあれ、自分の身の上話より、司書をめざす皆さんに、町立図書館の現場から、これからの司書が何をしなければならないのか、何かヒントになればと思い、我が挾間町立図書館の運営のありのまま、私の個人的な図書館への思いを書かせていただきます。

挾間町の町長の思いは、「本に興味の無い人、図書館とは無縁だった人が、つい行きたくなる図書館を作る」というものでした。辞令と共に、そのことを申し渡されました。そのために、あえて、現場経験の無い者を採用したと聞きました。従来の図書館のイメージを引きずってはい困るからでした。その考えに私も賛成です。市町村レベルの図書館は、自由で楽しくなければ意味が無いと思っています。「図書館は静かにしていなければならない」なんて事は無いと思いませんか？。静かに本を読みたい人用の閲覧室を別にすればいいのではないのでしょうか？近年、図書館は、どこも滞在型の図書館をめざしています。楽しく、豊かな気持ちで一日中過ごしていただきたい図書館にするためには、施設設備の雰囲気、接客の態度、資料の品揃え、など、司書が心を配らなければならない事は山積しています。その上、図書館に対する人々のニーズは、多義に渡り、情報のメディアも次々にその姿を変え複雑に

なっています。それに対応できる司書たるために、日々自己を磨き資質を高めていかなければなりません。ただでさえレファレンスや、カウンターバックの仕事に追われているのに、さらに、図書館外のさまざまな文化、生活情報の収集、児童や、福祉施設にむけてのサービスの技術、広報活動、e t c, e t c . . . 。規模の小さな図書館では、司書はオールマイティであることを要求されます。その上うちの図書館では、11月のきちょくれ祭り、3月の図書館祭りに衣装をするため洋裁や、手芸の技術も持たなければちょっと苦しい思いをします。このように、今、司書にはたくさんの方が要求されますが、カウンターに立って、いの一番に求められるのは、「誠実」と「愛嬌」です。無愛想で、事務的な対応をする司書は、その他にどのような優秀な素材を持っていても、市町村レベルのいわゆる市民図書館ではちょっと困った存在となります。どうか皆さん、館長泣かせの司書にならないよう心の鍛錬もがんばってくださいね。とにかく、本気で司書になりたいと思っている人はできるだけカウンターに立ってみる事です。教室で学んだ事の何倍もの量のことを現場で学ぶことになるでしょう。そうすると、就職に際しての面接の時、面接官に「これは使える」と思わせるコメントができるのではないのでしょうか。単位の中での実習だけでなく、積極的に自主的なボランティアでの実習をすることをお薦めします。さらに言えば、ぜひ、我が挾間町立図書館に実習にいらっしやい。うちは、オープン当初から、町内小中学校とオンラインで結ばれています。また、毎年新しい事業を立ち上げ図書館がより多くの町民に親しまれ、浸透して行く努力を怠りません。また、役場内は、イントラネットで結ばれていて、職員間の連絡、お知らせ等パソコンでのやりとりができ、何かと、図書館運営にも重宝しています。挾間町は、小さな田舎町ですが、IT関連の事は先進地です。医大、別大大分キャンパス等が隣接し、両大学とは異文化交流などしています。何よりも、すばらしい(!?) 図書館を有し、歴史民俗資料館もあり、人々は活気に満ちています。合併問題を抱えていますが、どのような形の合併になろうとも、挾間という地域は、文教の地として栄えたいと、個人的には思っているわけです。そうすると、文化の集積、発信、生涯学習の支援、その他あらゆる活動の基地として、図書館の存在意義を人々に知らしめなければならぬ重責があるのです。司書は、図書館の中で、本と格闘しているだけでは話になりません。図書館に興味のない人に図書館の面白さをどう紹介するのか、子ども達に賢い図書館の利用の仕方をどう教えていくのか、など、外に向かっていかに図書館をアピールするかを、常に念頭に置いた仕事ができなければなりません。

忙しいけど楽しい(!?) 挾間町立図書館に修行にいらっしやい。

司書になりたい皆さんどうぞ最後まで希望をすてないで!。「願えば叶う」ですよ。